

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	リップコード・ベロシティ	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.530	△RG	0.047	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：RIPCORD VELOCITY

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ

番 磨磨剤

比較対照ボール：RIPCORD

フレアーの幅 インチ

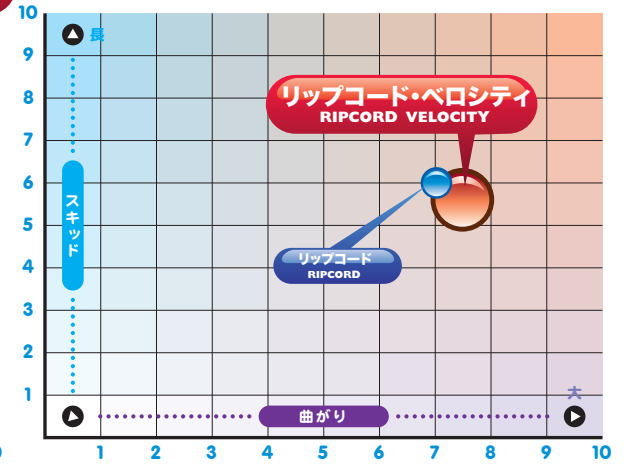
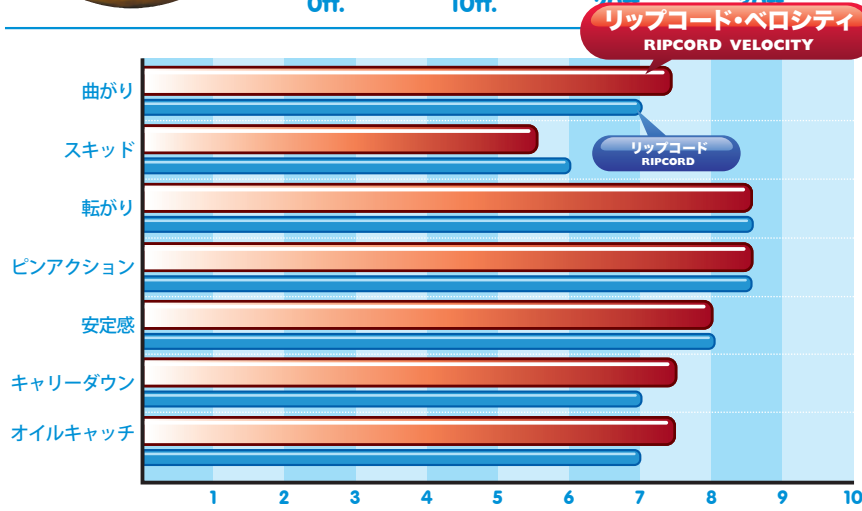
PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ

番 磨磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

2019年7月に発売されたRIPCORD. Infusion PearlリアクティブにOblivionコアの組み合わせで、走る・切れるを開発コンセプトにミディアムコンディションを中心にメリハリ感のあるリアクションが定評でした。今回発売するRIPCORD VELOCITYは同じInfusionカバーでもMVPという新たな添加剤を加え、初代RIPCORDのイメージは損なわずに走りの中にオイルに対しての安定感を加え、バックエンドの動きはそのまま活かす性能で仕上がってきました。RIPCORDとRIPCORD VELOCITYとの違いはカバーストックですが、比較投球してみるとRIPCORD VELOCITYの方が同じラインでブレーキが早めにかかっているのを感じ取れます。しなやかに丸く切れるイメージの初代RIPCORDに対してブレーキ止まる・切れるというイメージを感じ取れ、これが新たに添加されたMVPカバーの特性ではないかと思えます。対応コンディションはミディアムからミディアムライトが中心ですので、オイルを感じすぎて減速が効かない場合や曲がり幅が足りない場合などは対応コンディションを超えているようです。一方、向きが変わるところが合ってくると、切れ幅は益々大きくなり、出し戻しの幅も大きくできます。向きが変わるところがあれば反応の良い戻し幅の広いボールは前作RIPCORDそのものであり、ターゲットであるミディアムから下の領域ではかなり攻撃的にラインを攻めることができるのもRIPCORD VELOCITYの良いところだと思えます。オイルが薄いコンディションや削られてきたコンディションでは、中目のラインでやや外に向けるラインが多くなることと思えます。その時走り加減と入射角の強さは点数を導き出す非常に重要な要素になります。必要な場面に合わせて必要なボールを使う。奥でもうひと動き欲しいと思った時、RIPCORD VELOCITYの出番です。

特記事項

ミディアムコンディションを中心に奥の動きに定評のあるRIPCORDがバージョンアップされました。中盤から後半、インサイドの角度が足りなくなってきたとき、攻撃的にラインを攻めることができます。